

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
1 人権・教育	人権週間・人権教育研修会が年2回実施されている。大山崎中学校の新築された。	大山崎小、第二大山崎小の校舎等の老朽化への対応。通学路の安全確保が必要である。	大山崎町に住んでおられる方の人材を生かす(教育のなかで)。社会、歴史学習として、町の文化財の学習を町内会と児童で学ぶ機会を。	他市町村にある教育、教材の活用する機会を(文化財その他施設)	子どもの少子化の問題(学校の統合の問題)。	学校の統廃合(小中一貫教育)。学力の向上	施設の充実、人材確保。内容として国の動向の見きわめ(方向性)。	質の落ちない教育内容の充実。
2 人権・教育		各課、係において、内外問わず、協調性、協力性の向上			各小・中学校の建て替え等を検討する時期			
3 人権・教育	小・中学校が2校で中学校が1校の小じまりとした環境であり、子どもだけではない、保護者同士の見えやすい。保育所、小学校、中学校ともに「天王山」というシンボルを活かした校外活動が実施されている。	子育て中の親への支援方法、教育方法。特に、小学生、中学生の子どもをもつ親は、「子育て支援」の側面(福祉サイド)と「家庭教育」の側面(教育サイド)の両面からアプローチを受ける。総合的にみて支援するべきである。行政の連携の強化も必要	教育に携わった人などの地域での活動(人的資源)		親の教育力の低下の進行	子育てがしやすい環境であることを大前提に、親の資質、教育力の水準が一定保たれていること。	子育て中の親に対してのソフト面での支援	保育所、学校を通じて親(保護者)へのフォロー。(親への教育を含む)。
4 人権・教育	公立保育所、児童保育など、保護者と作りあげてきた現状。地域全体で支えられている子育て環境。	施設古さ。	図書室の充実化。		より多様なニーズの出現。若い世代の減少。	未来のためにには子育て世代に住んでもらうことが必要。そのために子育て環境を充実させる。	公的保育の保障。学童の充実。	
5 人権・教育	小学校2校、中学校1校なので連携しやすい	地域と連携した取組をもう少し充実する	人材(文化、知識人もそれなりにいる)のでその方々も含めて活用を工夫できるのでは?)		IT等情報化が今以上に進む	PC、タブレット等必要な整備はそれなりに進めていくことが大事であるが、それと同時に地域と連携したボランティア等の学校支援体制を充実し、子どもの教育を町ぐるみで取り組む。	乳幼児～小・中学校の子どもたちの教育充実に向けた予算措置。災害対策など安全・安心な町づくり。	子育て支援、子ども教育充実。災害対策。道路整備。
6 人権・教育	教育に関し、2つの小学校、1つの中学校と小規模であり、まとめた地域環境が総合的に穏やかで落ちついて学力の向上に取り組める	小学生の学力向上に向けての方針を明確に示し、具体的な目標を掲げた取り組みの推進	学校と保護者が協力して児童、生徒の健全な成長を図るためにPTA活動をさらに積極的に活用	教育専門の総括指導、助言を行える職員の継続的配置	開業により、小学校の児童数が増える。2つの小学校の児童数のアンバランスが大きくなる	家庭地域の教育力が向上し、小中学生が健全に成長し十分な学力を身につけている状況	教育・福祉・疲労の連携が児童・生徒の健全な成長には不可欠であるため、それらをきめ細やかに行政が一体になって取り組むこと	PTA活動の推進

	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
11	2 文化・スポーツ フェンシングを象徴としたスポーツ文化づくり	文化面については無個性	天王山、大山崎山荘美術館	リードすることができず人材(産学公いずれにも必要)	積極的に取り組む地域とそうでない地域の差がより大きくなる	スポーツ・文化で特徴ある町	それぞれに取り組む個人・団体・事務所等のつなぎ役となって支援すること	特徴を創出するための取組を支援すること
12	2 文化・スポーツ 人口1万5千人のまちであれど町の中での状況が細かなところまで注視できているのではないかと、これは他の大規模な自治体にはない大きな強みだと思います。	小さいがゆえに行政がなんでもかんでも手を出しすぎてしまいうらいがあります。もともと住民自身が自発的になしえる方にとしたいと思います。	住民自身の自発的活動(本項目だけではなくすべてのものに当てはまると思っています)					
13	2 文化・スポーツ 自然が多い。歴史的文化に触れる機会が多い。フェンシングという根強いスポーツ文化がある。美術館など文化的な施設が比較的活発である	歴史や美術の文化を活かしきれない。観光など他の分野につなげられていないのでは？	サントリー大山崎山荘美術館	地元住民と町職員のつながりをもっと強くする	一搬住民協力者の著しい減少。		住民の心をゆたかにすること。観光などにつなげ、町を活性化させてゆくこと	
14	2 文化・スポーツ 歴史に根ざした荏胡麻油寛活の取り組みが始まった	ボランティアに頼りすぎている。スタッフ等の和が確保できない。町職員の協力(例えば動員としてなど)が甘い	地元住民と町職員のつながりをもっと強くする	地元住民と町職員のつながりをもっと強くする	住民と行政の強い協力のうえで成り立つ町。		事業の見直し。(住民の意見も聞きつつ)	地域の事を十分に理解できている職員。
15	2 文化・スポーツ 文化財など歴史学習をするにあたり十分なものがあ。スポーツに關してはすばらしい体育館がある。	町民、その他の人に良いところを広く広報する(町の持ちようを生かす)。施設の維持、管理費が高つくこと。	町おこしなど制度も含めたすばらしいものを発信する(強く)必要がある。	リーダーシップをとれる人材	体館においては老朽化にともなう修理の費用。学校、施設を利用したプログラム。	住民協働	住民活動のサポート	荏胡麻油、荏の生産
16	2 文化・スポーツ 文化財など歴史学習をするにあたり十分なものがあ。スポーツに關してはすばらしい体育館がある。	町民、その他の人に良いところを広く広報する(町の持ちようを生かす)。施設の維持、管理費が高つくこと。	町おこしなど制度も含めたすばらしいものを発信する(強く)必要がある。		体館においては老朽化にともなう修理の費用。学校、施設を利用したプログラム。	活力ある(町民の姿)生き生きとした姿。スポーツ少年団の活躍(青少年教育の充実)。	現状維持のための予算面のうらづけ。	予算面の強化。
17	2 文化・スポーツ フェンシング	もってアビールするべき						
18	2 文化・スポーツ たくさんの方の町民行事がある点	高齢化にともない、選手確保が難しい点。	歴史のある町なので、もってPRすべき。	PRしても世間に紹介されないところはない。FB、LINEなどのSNSを使ったらどうか？	ますます高齢化し、体育大会等の行事が難しくなる。	スポーツ、文化も大切ではある。	体育館の民間への移行。ソフトボール、ソフトバレー、グラウンドゴルフの統廃合。	

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
19 3 保健・福祉	公立3ヶ園が維持されている。大山崎の自然の中で子ども達を健やかに育てている。ゆめほっぺ、あそびの広場、園庭開放など子育て支援充実している。	安全、安心な保育が保障される保育体制。	遊休地。旧庁舎の跡地。	正規の町職員	新しい住宅が増え自然が減られていく。少子高齢化だが働く母親は増え、子育て支援など保育ニーズは高い。	保育所は公設公営を守り、安心安全な保育、今の素晴らしい保育内容を継承していく。	安心、安全な保育の充実 実 実が満たされる財源保障	安心、安全な保育の充実 実が満たされる財源保障
20 3 保健・福祉	公立保育所3園が守られていること。子どもを育ちを町が責任をもつて行なっていること。	地域での横のつながりが薄くなっている分、子育てをする親が保育所・福祉に求める思いは大きいので不安がないよう接することができようしつかりとした職員専門の人の配置。			高齢者が増え、交通、生活においての快適さの見直し。	今後将来ある子どもたちの育成と、高齢者への支援の充実。	町として責任をもって施設運営を行政がしていく(民間へではなく)。	医療関係、病院(専門の)の設置。
21 3 保健・福祉	子育ての関係(医療、施設等)が充実している。	子育て支援センターのような施設がもう1カ所ぐらいあった方がよいと思う。			保育所等施設の老朽化		施設など環境の整備	老朽化した保育所を建てかえる。(統廃合、センターの設置などを考える)
22 3 保健・福祉	住民の顔の見えるきめ細やかな対応、出生数が増加が維持できていること	ニーズが多岐に渡るとめ、よい点であるきめ細やかさにかけてくる可能性もある。高い水準の保健サービスをするためにも、人材が必要と思う。		人、専門職	高れい化がすすむ一方で賃貸住宅も増え人の出入りもある町となりそう。	若い世代も健康に目を向けることのできる心の余裕が持てるような住みやすい町	健診全般、育児支援をする中で10年後20年後の自分をみつめることができるよになると思うので、成人の健康に関すること。予防接種など。	健康増進係で行っている事業全般
23 3 保健・福祉	他職種との連携がとれている。研修に行かせてもらえる環境。	業務整理が必要。	部署内の連携、コミュニケーション	業務評価機関	少子高齢化に伴う疾病構造の変化。健康づくりのニーズが更に高まる。	データヘルス計画に基づいた保健活動		データヘルス計画
24 3 保健・福祉	大都市にはできない地域住民に寄り添った支援サービスができること	人的資源の確保		医療機関(眼科、耳鼻科、産婦人科等)	高齢化にともない、ますます福祉が重要になってくる	行政、住民が一体となつて支援が必要の人を支える町づくり。		子育て支援。高齢化対策
25 3 保健・福祉	町立保育所待機児童がない点。住民との距離が近い。	ファミサポがないなど公的サービスの量が少ない	保健所の事務量が多く、本来の予防活動ができていない。	ファミサポ	虐待ケースや精神疾患ケース等要フォローとなる世帯の増加	問題を抱えつつも公的サービスや住民同士で支えつつ地域で生活していくことができる町		

選択分野		(1)選択した分野に関する現状分析				(2)選択した分野に関する将来分析						
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと				
26	3 保健・福祉	住民数の規模も小さいので、きめ細やかなサービスが比較的提供できる環境にする	病院や施設が少なく、限られる。	個別に手厚いケアができる。	ファミサポ制度	特養、その人材、通所施設、地域コミュニティ	高齢化が進行し、様々な介護・健康問題が生じる	住民が健康で自立した社会コミュニティを形成する	高齢者が増えて、福祉利用が増える。	環境の変化に応じて柔軟に対応できる力をもっていることが必要とされている。	公的機関同士や公的機関と関連機関をつなぐコーディネートターの役割。	町が把握したケース(母子、高齢者、障がい者等)をフォロー場(Ex小・学校、高齢者施設、病院)につなげる。
27	3 保健・福祉	保育所において、当初待機児童「0」を続け、運営費節減にも努めている。	保育師等の努力も限界に近く、安全面等で問題が発生するかもしれない。	京都学園幼稚園	民営化に取り組むノウハウが不足していると思う。	少子化ではあるが、小さいうちから保育所等にまわらず子供は増加すると思う。	公立／園、民間認定子ども園／園。住民に選んでもらえばよいと考える。	意欲ある民間の進出に期待し、手助けを行う。公立保育所は民間の手本となる。	第二保育所の閉さ、第一、第三保育所の統合。学園幼稚園には利用率の悪い公園(土地)を提供し、認定子ども園を経営してもらう。			
29	3 保健・福祉	困っている住民にやさしい。	もう少し受け入れ幅を狭くして、本来に必要な人を受け入れられる枠を作る。	人材不足	保育の質のよさなどをめとアピールすべき。	人材	高齢者も子どもも増えてくるが、施設や人材不足で結果住みにくい町になる。	無理のないゆとりある生活の保障。	財政が少なくても必要などを削ってしまつては、次へつながらない。必要などところには人材をしつかり確保していくこと。	今後の町の発展のためには、若い世代がたくさん住みたいという町づくり。子育て支援の充実や今の誇れる保育の継承で住みたい、ここで子育てしたいと思える町づくりを。自然と歴史のある町並みも残していくことも大切。		高齢者施設の誘致
31	3 保健・福祉	子育てをするには3つの保育所と幼稚園があり学童保育も充実している。	高齢者がひとりで移動するには交通の便が悪い	コミュニティバスの活用	子供の人数は減少すると思いますが、共働きの世帯が増えるので保育所に預ける子供が多くなると思います。高齢者の数も多くなる。	幼児教育の充実。高齢者が安心して暮らせる町						

選択分野		(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと	
32 保健・福祉	子育て支援があること。子育てするのにいい自然環境。	規模が小さい、もっとアピールするべき。自然をこわさない。	元気なお年よりいる。おばあちゃん、おじいちゃんが見てもいいのでは…		高齢者社会。少子化。	実家で子育てしているような。子供が安心して遊べる。親が安心して育める町。	子育てしやすい町にプロデュースすること。		
33 保健・福祉	自然多く環境がよい。待機児童もゼロで保育所が充実している。安心して子育てできる。				少子化がより進み老人が増える一方	よい点が維持できていること、福祉充実してほしい			
34 保健・福祉	公立保育所、学童保育など、保護者と作りあげてきた現状。地域全体で支えている子育て環境。	施設の古さ。	図書室の充実化。		より多様なニーズの出現。若い世代の減少。	未来のためにには子育て世代に住んでもらうことが必要。そのために子育て環境を充実させる。	公的保育の保障。学童の充実。		
35 保健・福祉	天王山をはじめ多くの自然を保育の中で子どもたちと共に体全体で感じられていること。	保育所において、臨時職員だけでクラスを任す間とはいえあてはならないことだと思います。他市では考えられないことだそうです。	今まで共に働いてきた嘱託職員をぜひ正規に！！全員の新人よりも即戦力になります。						
36 保健・福祉	子育てしやすい。保育所も3か園ある。環境がいい。	老人福祉施設が少ない							
37 保健・福祉	就学前の子どもも対する保健・福祉はとても充実している。								
38 保健・福祉	公立保育所の保育内容がとてもしっかりしている。今後、維持してほしい。	正規職員が少なすぎる			新しい駅もでき、ますます住民も増え、人口が増えていく	住民、すべてにやさしい町			
39 保健・福祉	やさしく親身になってくれる。								
40 保健・福祉	大山崎町に住んでいる子どもはどの保育所に通っていても同じ保育が受けられる。	子育て支援とはいえ、仕事もありせうに子どもをあずけている人も多いかと思う。入所の時に本当に保育が必要であるかももう少しよくしきり必要かと…。	一時保育を一定の場所で行うのであれば、第3の倉庫となっている所をリフォームして使えるようにしてはどうかと思う。	又一時保育で時間が短くて利用しにくい人も多い。人材をしっかりと確保して運営できるよう体制づくり	少子化が進んでいるとはいえ、保育所を必要とする人は多いと思う。	保育士の採用をこまめに行い、大山崎保育が継続して行うことの出来る保育士をつくり今の保育が続けられるように…		本当に保育が必要である人をつかめと見極め、それに合った保育士の配置が必要である。	

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
41 3 保健・福祉			観光資源	財政力	医療費用の拡大、福祉医療等の助成制度において対象者が上昇傾向にあり、今後も続くと思われる。			
42 3 保健・福祉	住民と行政の距離が近い(顔の見える関係)	福祉専門職の雇用	シルバー人材、特に60代の定年後まだ働ける能力も体力もある人達	福祉サービス提供事業所(通所施設、入所施設、ヘルパー派遣等)	高齢化に伴い介護保険、障害福祉の対象となる人口の増加。国制度の見直し(毎年あまりにも多い)。	国による決められた制度を運用していただくのも年々費用負担は増加していくばかりである。歳出に見合った歳入の確保の道筋をつけていく必要がある。	行政の助けを必要としていない人でも要件を満たせば各種の福祉制度の恩恵を受けられることができる。しかしそれが積み重なり行政の財政を圧迫している。福祉の助けがなければ自活できないような人達に絞って支援するのが福祉行政の役割では。	財源に限られている以上、勇気を持った既存事業の整理が必要になると思う。
43 3 保健・福祉	小さい町なので事業を展開しやすい	財政的に厳しく、職員は通常業務でいっぱい、余力があまりなく、積極的に新規事業を導入しにくい	元気な高齢者、広域的に行うことで活用できるノウハウなど	専門知識、ノウハウをもった人、ある程度の期間業務に携わることができる人	超高齢社会、医療費等増大、介護の担い手の減少	町民と協同でできることは協同で、行政がすべきことは行政で、広域化してできることは広域化、効率良く取り組む。	法に定められた事。最小限にし、少しずつ色々するよりも、特色ある町で売り出せるようにする。	時代の流れに沿った取り組み。認知症対策、地域で支える仕組み作り、病児保育(働く世代の確保のため)。
44 3 保健・福祉	人口が少ない分、よりきめ細かいサービスが展開されている。	サービスを受けていない人をどう把握するかが課題。	社協、地域包括支援センター、民生委員、ボランティア団体	NPO法人、複合施設(公民館、コミュニティセンターの一体化)	特に介護保険サービスの増加が見込まれる	高齢社会に対応したまちづくりを推進すべき。	行政サービスの質をおとすことなく、住民の協力を得る。	協働化。行政と住民が協力して福祉行政に取り組んでいく。
45 3 保健・福祉	保健師の地区分担制や児童福祉係の児童虐待対応事務局機能において、きめ細かに町民に目が行き届いており、悲惨な事案の発生が防止できている。	子供から高齢者まで福祉の充実に総合的に対応できているが、今後には持続可能な行政運営を鑑み、どこに重点を置くか福祉施策の集中と選択、軽重をしっかりと見極めていく必要がある。	人材(財)・・・特に中高年者。子育てから要支援高齢者への家事サービスなどに至るまでの種々のサポーター(有償ボランティア制度を中心に)		障害者福祉については、着実にニーズ増(利用者増)が見込まれる。高齢化はまだ10年は確実に進行すると思われ、少子化も避けられない。医療費の伸びも確実に見込まれる。	国・府の政策と相まって、一定子育て支援の安定・充実したまち。高齢者を地域で支えるふれあひめたかなまち。町民が健康で生きがいを持って暮らせるまち。	安定した税収の確保及び医療費の削減につながる健康づくりと生きがい対策への仕組みづくり(仕掛け)。	町の活性化の意味では、子育て支援を最重点に取り組み、若い世代の定住化を図る。(税収確保)子育て世帯や要支援高齢者に対するサポーター養成。健康意識や生きがいへの意識を高める取り組み。
46 3 保健・福祉	他の市町村に比べると人口が少ないため一人一人のことがよくわかること。	介護保健施設が少ない。	リタイアして家にいることが多い高齢者。	在宅高齢者を支援するための事業。	保険料が高額になり一人一人の負担が増える。介護保健施設が不足し、在宅で介護をする人の負担が増える。	独居の高齢者が他の方と関わりを持つことができない環境づくり。上記であげたいような負担を増やす方に対して、負担を軽減できる新たな事業。	事業の重要度、優先度を考え低いものは廃止していき、高いものにより力を入れていく。	他の市町村の成功例を参考にし、本町で取り組めることは積極的に取り組む。在宅高齢者福祉サービス。

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析					(2) 選択した分野に関する将来分析		
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	④ 予測される環境変化	⑤ 10年後のあるべき姿	⑥-1 行政本来の役割	⑥-2 重点的に取り組むべきこと
47 3 保健・福祉	行政と町民の距離が近い	なまあめの関係、職員が手をかけすぎている。	中高年の人材。少しでいいので手伝ってもらえるように。	移動手段	現在の団体リーダーの入れ替わりがうまくいかず、縮小・統廃合がある。	小さな福祉	必要最少限の援助	ハード・システム、仕組みの整備
48 3 保健・福祉	きめ細かい行政サービスを展開し、大きな要望活動にならないようにしている(個々の相談や支援が充実しているの)で)	職員採用時に福祉を意識したことはしていないので人材育成等に課題がある(福祉系大学卒や有資格者等の採用)	福祉事業所に町内のあき店ぼ等(不動産情報)の情報を渡し、小規模でも事業展開してもらおう。協議会に不動産業者の参画、公有地含め土地情報の発信	町内にサービス事業所が少ない。職員に専門職がいない	国の動向に大きく左右される。施設ではなく自宅、地域で24時間見守り、安全・安心のような形ですべて基礎自治体に権限が来ている。予算については制約される面も多い。	障害分野等では個別性が大きいので、1人1人に寄りそって行け相談支援が大きなウエイトを占め根幹をなすと思う。その部分がでる人材や事業所の確保を継続していくことが大切である。	憲法の理念からしても福祉は行政であり、その自覚は必要である。ただ行政と寄附という憲法規定から寄附にも力を入れる。社協の活動強化や広く町民からお金を集めることと国予算から財源確保が必要である。	社協との連携の強化と寄附を含めた財政面の強化。国の予算はうまく理由をつけて財源をばらけているが本来の国の義務を財政面でも明確にすること。
49 3 保健・福祉	小さな町なので、お互いの顔が見える、融通がきく。	少数派には不利が多い。		人材不足、商業施設	高齢者増加、介護問題	高齢者(介護)施設増設		
50 3 保健・福祉	今のところ公立保育所3園が守られている。	保健、福祉の分野で働いている人たちの人材不足。クラス担任が正規1人では保育のけいしようがむずかしいです。特になし。	自然を残してほしい	人的資源、商業施設などお金をおとしてもらえるところ	自然がこわされ、家や道路が作られていく。保育、福祉、人材がどんどんけずられていく。	自然を残し、人と共生する町。保育や福祉の人材、資金をけずらず今のままが10年後もあるように。	大事な部分をけずらない(人材とか施設を整えるお金とか)	
51 3 保健・福祉	親身になって相談にのっている点。安心して預けられる点。(子どもも老人も)		ベテランの保育士、保健師が多くいるので、もっと手助けができないか？		老朽化のため、建て替え。	福祉に手厚い町。	子育て支援(保育所)は行政本来の役割であり、へらすべきではない。	子育て支援(保育所等)健康づくり(保健センター)を統合してはどうか？
52 3 保健・福祉	町の規模が大きくない分、機関同士の連携がとりやすいこと(ex. 学校-保育所-保健師-役所)	人材不足、設備・施設の老朽化	豊かな自然環境	人材	社会的な背景から生活自体に支援の必要な家庭が増えると思います。	多様な生活環境にある人たちに必要な支援ができること。	住民の生活の安定。	町内の各機関が関連の深い他の専門機関とつながること。福祉に関する事業・政策は民間委託ではなく町が責任をもって公立で運営していくこと
53 3 保健・福祉	小さい町なので、きめ細かく住民のようすが把握しやすい。	保育所、小学校、学童などと家庭とのすき間をフォローする支援。手厚いがゆえに、恩恵を受けようとしてネットで調べている支援世帯がふえている	行政が住民を取り入れ活用する(サポーター)	人材(住民の力を行政にとり組む)、(行政と、住民をつなげる能力、住民の中へ入っていく)	田畑が開発され、住宅化する(相続税を払うため)。人口が増えない中で古い家屋は廃屋化する	多少の開発はあっても、ある一定の規律ある区画整備されている町。働くのは町外、住むのは大崎と住みわけた行政支援	少ない人材や資源を活用して、大崎の現状を把握してふりかける。	住民に見通しもらった町づくりプランを示し、住民といっしょにどういう町づくりをしたらいいかを考える。ステキな能力をもった議員を発掘する

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② よりの活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
54 3 保健・福祉	子育て支援など一時的に子供さんをあずけたり出来る。困った事など相談してのってもらえる。	障害者にやさしい町ではない。						
55 3 保健・福祉				人材				
56 3 保健・福祉	環境と人のあたたかみ	人材不足		人材	経験豊かな専門職の不足	社会的弱者が尊重される町。保育に、行政が公立で責任を持つてほしい。		
57 3 保健・福祉	公立で3つの保育所がある点							
58 3 保健・福祉	待機児童がない点				あまり変化はないと思います。	若い世帯が住みよい町、ということはいまの住みよい町にするべきだと思います。	子どもを第一に考える。	
59 3 保健・福祉	子育て支援は充実している	高齢者の移動支援、活動支援	60～70歳の元気な高齢者	様々な分野の専門家が不足	(現在)人口15,500→(10年後)人口14,500(現在)65才未満11,000→(10年後)65才未満10,000(現在)職員数140→(10年後)職員数120(?) (現在)高齢化率27%→(10年後)高齢化率30%	いまだ以上に60～70歳の元気な高齢者が活躍する充実した生活を送っている	10年後のまちのあるべき姿を明確にする。60～70歳の元気な人達を活用する。	行政はあくまで住民生活をサポートする立場で。
60 3 保健・福祉	長岡京市、向日市とほぼ同レベルの制度がある。	近隣市レベルのサービスをこれからも維持することが出来るのか？優先順位、取捨選択の必要性があるが、仕分けがむずかしい。	元気な高齢者を地域のボランティアとして養成する。たとえば、子供が減って使われていない公園を高齢者に自らの手で整備・管理してもらう。	地域で力が余っている人間をボランティア活動に向かわせる動機づけの方法があるいは仕掛人。	これまで以上に高齢者が増え、医療、介護にかかる行政経費が増大する。	公共施設の更新が進められるか。持続可能な行政サービスを維持できるかが問題。これらの問題をクリアできないければ、サービスの拠点を失い、住民の要求に応えられなくなり町の存亡の危機となりうる。	行政課題の優先順位を常に住民に示し、行政と住民の目線が大きい、離れないようにする。	箱物は真に必要な物にまとめる。必要な箱物はメンテナンスの費用をかける。公共施設の建物には必要な基金が積めるまで着手しない。

選択分野	(1)選択した分野に関する現状分析				(2)選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
61 3 保健・福祉	乳・幼児検診、クリニック等がいていねいに行われ狭い町ならではの連携がなされていると思う	以前は更に保健師等の活動が活発で早期発見、早期治療、早期の対処等が行なわれていたように感じます。何が原因かはわかりませんが、残念に思う。	地域のネットワーク、公の施設等の連携を強め更なる住民サービスの向上が計れるのでは。		今以上に高齢化、少子化により福祉が対応しなればならない面が変わり、当面は高齢化対応が重きになるだろう。それもある一定の年数を過れば状況が変わると思われるので、それを見すえた上で行政サービスを考えていく必要があると思う。	まだ高齢化対応が必要だと思われる。高齢の方で少しでも長く健康で生々と過ごせられるような対応が必要かと思う。少子化ではあるだろうが、大山崎町は子育てしやすい町を守りつつその時代に合った対応をしていって欲しい。		行政が直接行うことも必要であるが、地域のネットワークを活用し、町民と連携し高齢者・障害児・若等の孤立を防止する意欲を高めるよう相互間の関わりを密にするような取り組みを取り入れていければいいと思う(大変なことではあるが他の自治体で行なわれ、かなり効果を上げているという情報がある)
62 3 保健・福祉	職員のきめ細やかな優しい対応(いろいろなケースがあると思います)が。	車イスでお年寄りの外出介助をした時や、ベビーカーを使った時に感じるのですが、歩道が道路側に向かって斜めに傾いている所が多かったり、狭くて通れず道路にすることがあります。お年寄の杖歩行の方や若いお母さん方が外出される時、大変だろうなと思っています。						
63 3 保健・福祉	行政と住民さんとの関係が密接である。	何が問題が判明してから対応するという後追いの状況であること。	現状をよく理解している当事者、当事者になりうる人達からの要望をはっきりさせる。→その人同士の距離を縮める。	健康対策	高齢化	すべて行政によりかかっているのではなく、住民さん同士も協力しあえる環境づくり。何より誰もが健康であること。	本当に困った人を助けること。困ってしまう状況をつくりださないこと。	健康なまちづくり

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
64 保健・福祉	公立保育所で保育が受けられる。	0才を9人受入れるようになっている何人も経過しているのに施設は6人定員の時のまま。	他市町村では定着している都市計画税を徴収していない。	生活保ご世帯の方が京都市に移ったとたん病院へのタクシー代がずいぶんかかっている。チェックが入っていった。本町はやさしい行政ですが、母子家庭なのに実際は父にあたる人がいて生活がずいぶんハードで目にあまる場合もあります。本町に必要な人への支給、そして就労支援へとバックアップしてあげてほしいです。	子どもが小さいうちからの共働きが当たり前となり、乳児保育の充実が求められる。子育ての力量を得ない保母者がふえ、保育所はより専門性やカウンセリングの必要となる。	お年寄りがふえて、保育所の幼ない子どもたちとなる。	未来ある子どもたちを育む保育所継続	
65 保健・福祉		今後もっと高齢化が進み、他市と同様、支援の具体的な取組がもっと必要になってくると思います。						
66 保健・福祉	人口1万5千人のまちであれば町の中の状況が細かなところまで注視できるのではないかと。これは他の大規模な自治体にはない大きな強みだと思います。	小さいがゆえに行政がなんでもかんでも手を出しすぎでしまいうらいがあります。もっと住民自身が自発的になされる方にとしたいと思います。	住民自身の自発的活動(本項目だけではなくすべてのものに当てはまると思います)					
67 保健・福祉	3園保育所の維持、学童保育の充実	さらなる子育て支援の充実						
68 環境	何もいないところ	何も無い	桂川河川敷に太陽光パネル設置	埋め立て地	なし	なし	10年後は予測できない	なし
69 環境	ゴミステーションが豊富。ゴミ出しが無料。多少の数量超過も回収してもらえる	弊になし			ステーションまでゴミを出せない高齢者が出てくる。分別の徹底	現状のサービスを維持	ゴミ収集、処理	減量化。分別の徹底
70 環境	環境保全への住民の関わりがあり、ゴミの分別なども比較的協力的である。	新エネルギーへの対応。住宅開発が進む中、景観、自然をどのように考えていくか	個々での取り組みが多いため、面として取り組みに広げていける人材の発掘確保	住宅の関わりが多いため、面として取り組みに広げていける人材の発掘確保	住宅の関わりが薄化になってくる。新エネルギーの導入。「自然」の減少	住宅との関わりを持ちながら、事業を進めていく。新エネルギー導入への積極的な姿勢	住民との関わりを持ちながら事業を進めていく	環境・景観・自然の保全と、人口減少抑制との関わり

選択分野		(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと	
71 4 環境	ごみの減量について。不燃ごみの分別収集を昭和50年代から実施しており、定着している。(区域が狭少であったため、先進的政策で容易である。)	行政主導であるため、行政がやるべきものという意識が感じられる。ごみの減量が町民生活にプラスになることを明確に示す必要がある。(モチベーションの高揚)	ありきであり、定年直後の世代の住民	地元企業、大学等とのジョイント	コストの軽減・圧縮との観点でごみの再資源へのアプローチがされ、排出されるごみの成分(材質)が変わる。分別収集品目の変化に伴う収集方法の適性化が求められる。	廃棄物に関する行政に対して住民の理解、協力を得るため成果、コストなど明確に示すことが肝要である。	廃棄物の収集・運搬体制の見直しが必要と思われる。(現業職員の3/5が4年後に定年を迎えることから、直営、委託等の組合せを検討決定する時期と思われる。)事業のコスト、住民との協働が不可欠であることから、住民へのモチベーションを考慮した施策の確立)	不燃物分別指導員を委託から町内会への変更。一定の協力を町内会等に支出。分別精度が低下した場合、収集しない。(再分別後収集する。)	
72 4 環境	現在、計画通りのごみの排出量となっている。	指定ゴミ袋制度導入により排出量削減。「ごみの出し方」が全住民に周知されていない。	ごみの分別を促し、再資源化をすすめる(古紙回収や集団回収)。住民のボランティア清掃。		職員数の減少、ニーズの多様化から、職員1人1人の業務量が多くなる。	行政と住民の役割分担がしつかりとできていない。そのことを踏まえて、ごみの減量、分別に一体となって取り組む。	「ごみの出し方」の啓発活動。自治会の支援。	ごみの出し方のルールを守っていただき、自治会長が先頭になって、きれいなまちを目指していく。	
73 4 環境	企業の寄付金、協力金により森林整備が進められている。	土地の所有者から応分の負担を求めていく。	竹、自然	地場産業、地元での土産品の製造・販売、人材育成 安心して動かせられる車両と人員	田、畑、竹林の減少	20～40才代の人が住みついてくれるようになり、魅力的なまちづくりの為に、ゴミの量が減り、災害ゴミが出た場合は迅速に対応する。	全住民に必要なサービスのみに	地域、家庭で出来る役割は、行政の役割から除外していく事。 災害に強い町づくり	
74 4 環境	鏡田地区の水害や山寺の近所の民家火災等、災害ゴミが出た時に迅速に対応できた	計画町に車両の入れ換えが難しい。			全国的に水害等の自然災害が増えている。今後、予想される南海トラフ大地震等の自然災害が、通常業務に影響すると思われる		町民が安心して生活できる町民サービスの維持。		

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
75 4 環境	町のシンボル天王山の保全については、平成12年に全国に先駆け森林ボランティアが設立され、荒廃森林の整備の活動がはじまり、続いて平成17年には産・学・民・官による「天王山森林整備推進協議会」が設立され、参画した者がそれぞれ持てる力を結集して、荒廃した森林を本来の里山のあるべき姿にもどし、水資源の涵養や大気の浄化をはじめ森林の持つ多面的機能を維持・回復のための取り組みが進められている。	来年度で、森林整備構想に基づく整備計画の最終年度を迎えるため、次期構想を策定しこれに基づく事業推進が望まれる。	天王山森林整備推進協議会の参画企業は、大手企業が中心であり、今後より多くの地元企業の参加が望まれる。		森林所有者の高齢化と所有者の世代交代(相続)により、利益を生まなくなつた森林はその場所も把握されないまま放置され、荒廃森林が増加するものと予想されます。	森林は緑のダムとも呼ばれており、山の荒廃が進むと保水力が低下し、大雨による山崩れの一因になると指摘されております。みどりのダム効果を高める防災上の観点からも、天王山を広く覆う荒廃竹林を、計画的に森林整備を推進するために、より広範な主体の参画が求められる。	森林整備事業の推進にあたっては、放置森林所有者と資金を提供する企業を結び、また民有林の森林整備後は、所有者と森林の維持管理を引き受けるボランティアを結びその調整を図り、また協議会においては、資金の管理・執行(寄付金として町一般会計に歳入・基金に積み立て、事業の設計・入札・委託料の歳出)事務という他の参画者には対応し難い役割を求められている。	
76 4 環境	自然が多い。ゴミの分別がしつかりしている。(人が立っている)	景観を壊さない。			田畑が無くなり、人は増える変わりに自然が減り、虫の声も聞こえなくなり、星も見えなくなる。	自然を残す。	自然の残し方、住民との話し合い。	
77 4 環境	天王山。三川合流の景観が良い。	自然が豊かではあるが、町として景観で個性がない。ただ自然があるというだけで、その良さが浮き出て見えて来ない。景観にメリハリがない。	町のシンボルが自然(天王山)であるためあまり、印象が薄い。乙訓地域のゆみである竹をつかい。大きな何かをR、阪急に乗車している人から、見えるようなものを建設する。					駅周辺の都市化を行い、自然をそのまま残すのではなく、社会基盤をすすめ、町独自の景観を作り出す。
78 4 環境	自然が残っている							
79 4 環境	天王山の自然環境	放置竹林	竹	人材	竹林拡大	放置竹林の駆除	広報、サポート	町民全員が山へ入る

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
5 防災・安全 80	自主防災組織がある	もう少し頻繁に防災に関する訓練やセミナー、ワークショップを町主催で行う	人的資源…活発に活動されているサークルが多いのにあまり知られていない。ワザをお持ちの方が多いの。経済的資源…最近おしゃやれな店が増えてきていて、休日にぎわっているのにビックリした。		高齢化がより進み災害弱者が増える	自主防災組織と共に災害がいつ起っても対処できるまち	町民の命にかかわるとすべて	
5 防災・安全 81	災害がすぐない。	住民の意識、認識不足	消防・水防団・自治会	防災に対する知識	過去の災害を知る人がいなくなり、災害がおこらないのが当然と思う人がふえる。	災害はおこって当然とし、常に災害に備える。	住民に地域の特性を理解させる。防災意識の向上	訓練や啓発
5 防災・安全 82		山に面した急傾面の家があるのに、地すべり等が心配です。具体的な対応があればよいのですが…。			住宅等が多くなり自然環境保全が心配です。			
5 防災・安全 83	土地がまだ広いところがある	防災の強い町づくり		人材	農地がなくなる		環境と福祉	福祉と町民活動、交流
5 防災・安全 84	行政の備蓄が豊富。行政と住民が近いためキメ細やかなサービスがなされている	住民の自律性を育む必要。水害常習地	商業者。企業。中高生	高校があれば高校生に訴えらるが…。大規模店舗(避難所、備蓄庫の代わりになる)	自然災害の多発。巨大地震の発生	被災後の復興(大都市に埋もがらになると思われる)	住宅の生命はともかく財産を守るなどということは不可能	風呂敷を広げすぎない。治れ、治水等のハード対策
5 防災・安全 85	通学路の安全を守る取組は比較的活動に行われている	防災に関する意識の低下。防災インフラの整備が進んでいない。	自治会・町内会、サークル、企業等	(一過性でなく)継続的な取組	大雨災害の増加	特にソフト面において災害に強い(地域力の高い)町	住民の生命を災害から守る	より効果的なハザードマップの作成。自主防災活動の支援。防災を通じた地域のネットワークづくり。地域防災計画のより実効的な見直しと職員の意識向上。
5 防災・安全 86	災害が少ない(人災除く)	ポンプ場再整備		専門職員	特別警報等ソフト面では充実するが、ハードが全くついていないと考える。	防災の意識を高める努力をし、災害時の協力体制を築く。		自助、共助、公助をお互い理解する。
5 防災・安全 87		水害対策。土砂災害対策			集中豪雨や大型台風などが増えており、一層災害などはおこりやすくなっていると考えられる		被害にあひつとを減らす、なくすこと	排水ポンプや土砂せき止めなど、設備の充実

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
88 5 防災・安全	子どもの登校時にける見守り活動に多くの町民がボランティアで協力している。	見守り活動を下校時間帯にも広げていく。			集中豪雨など異常天候などによる災害の増加。町内会等への未加入軒数が増え、地域のつながりが希薄化。	町内会、自主防災会など組織率の向上	町内会、自治会等の住民組織への人的、財政的支援。危険箇所等への安全対策。	危険箇所の対策工事。
89 5 防災・安全	防災計画が策定され、実施訓練もしている	水害の防止	避難所としての公共施設活用	自主防災組織の育成	予想困難な自然災害(ゲリラ豪雨、津波)が発生し、相当の被害がある	自然災害に強いまちづくりを推進する。住人一人ひとりが防災意識をもち自主防災組織の活動に積極的に参加する。	自主防災組織の育成や実施訓練の充実を図っていく。	住民との連携を深め、自然災害発生時の役割分担を明確にしておく。
90 6 社会基盤		水道料金と受水費の関係	経済的資源の活用(余っている水)	ノウハウ(下水道法適化に向けた)	水道料金の増加	安心・安全な水の提供		
91 6 社会基盤	豊富な地下水があり、京都府営水道との複数水源が確保されているため、各地で問題となっている、水不足・漏水等の心配が無い事。	町の主要な施設が水害に弱い立地であり、防災対策を考えるうえで、既存の町施設は、使用不可となる恐れがある点。			地下水と付帯水道の両方の使用は当面続くと思われる	治水、利水の面で今後重点的な施設整備に取り組む必要が有ると思う。水害に強く、また、水道料金についても現状より低減された住民のくらし易い環境となる様に努力が必要では。	安全、安心な環境(水害、防災面)整備の推進	上下水道施設の整備、雨水、排水施設の整備
92 6 社会基盤	JR、阪急から近く利用性が高い。インターチェンジもあり車での利便性も高い	駅利用者、車の利用のためにも、もつと道路が整備されていると、その強みが活かされない		府や国に働きかけよう経済的資源をよ町内の土地の整備を行う必要があり			町として住まれる方へのニーズが叶えられるよう。問題解決の中で行政が工夫を凝らし、財政の範囲の中で、行政サービスを行う。	少子高齢化に伴い、福祉の充足が課題となっている現在から、高齢者が逆に少なくなり、人口が減る社会が訪れるようになった場合、仕事を現役でされる世帯を呼び込める町をつくるため、社会基盤の整備を行う必要がある。大山崎町としてアピールできるものを新たに作り出し、高齢者→子育てにおける変え、子育てにおける支援についても考えていく必要がある。

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
93 6 社会基盤	土地利用について、工業地域を国道171号以東に配置して住宅地と区分し環境面に配慮している。天王山の三麓部では、樹林地の緑と調和した落ち着いた住宅地の景観を形成している。計画的に整備された円明寺が丘団地についてでも落ち着いた住環境を有している。	住民の日常町な買物や医療機関への交通利便性の確保。地震への対応や水害、土砂災害の防止といった自然災害する防災対策生活道路でのバリアフリー推進や安全性の確保		公共施設の整備を図るうえで基本となる公共用地の取得に関して精通する人員を継続的に確保する必要がある。また、公立財産の管理および地籍調査などで税収快での引上げも期待できる。	阪急西山天王山駅開発に伴い、住宅開発が進行していき、残された空閑地において、良好な市街地の誘導が必要となる。	府道の狭くて区間のバリアフリー化および町道1号線の歩道整備が進み円明寺団地からの公共施設へのアクセスが改善し安全が図れる。排水ポンプ場の水道施設整備と管路等の耐震化を図り安心で安全な水道水を供給できる。	住民生活基盤の安心、安全を図る	水道施設整備計画に基づき水道施設の適切な整備を行い、水道事業の健全化と安心で安全な水道水を安定的に供給する。雨水排水計画に基づき、雨水排水ポンプ場の施設整備を進め既設ポンプ設備の機能を含めた維持管理を行う。町道1号線の歩道整備に関して都市計画道路路の見直しにより補助事業化の検討を行う
94 6 社会基盤	町有施設が様々な活動により利用頻度が高くなり十分に価値がある点。	施設にあった利用方法を見なおす必要がある。※激しい運動が想定されていない施設での運動行為の禁止をもとめるなど。	特に思いつきません。	大々的な施設の修繕や、建替えをするための資金源。新しい技術導入のための情報など。	老朽化が進み、修繕では問題の解決が困難になると思われる。	各施設を時期をずらし集中的に改修などをおこない、その後も10年周期ぐらいで設備の見なおしをおこなうことが必要かと。	安全に利用していただける施設等の環境づくりを資源が減ったとしても続けること。	資源が減ることに対して、やはり都市計画税の導入について理解をえられるよう根気よく取り組むことだと思います。
95 6 社会基盤	早い時期より下水道の普及率が高かった。	道路の傷みがはげしく、通行するのにストレスを感じ。小さな開発が多く、将来的に住み良い街となるかギモン。	特になし	町という組織を適正に運営できる人材。	西山天王山駅から円明寺が丘団地への道路は歩行者が増えることもあり整備が進んでいくと思う。	今ある施設を適正に管理し快適に利用できるように改善していく。	建設して終わりという時代ではない。住民のニーズに適度に反応するのではなく、現存する施設を管理していくことが将来の安心につながる。	舗装修繕工事。橋梁修繕工事。雨水整備事業(ただし、計画性のあ
96 6 社会基盤	行政の守備範囲が狭い(規模が小さい)	収入の少なさ(収入を増やすための策がない)。非効率な支出。	交通の便	収入源	深刻な財政難(事実上確定)	人が住みたい街を目指している途中段階		(1) 支出の検証(2) 取り組みべきことを専門家と作成する
97 6 社会基盤	地下水と府営水の複数水源を確保しており、災害などのリスクに対応できている。町域がせまく住宅地が密集しているため、少ない経費で維持管理がしやすい。	府営水道の受水費が高額である	良質で豊富な地下水を活用すべき	職員の技術力	給水収益の低下。施設の老朽化	施設の統廃合。水道事業の広域化。	町民が健康が文化的な最低限度の生活を営むための基盤作り。財政的に余裕があれば、町民の声を繁栄した町独自の町づくりを進める。	町における固定費(経常的経費)を削減すべき。

選択分野	(1)選択した分野に関する現状分析				(2)選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
98 6 社会基 盤		ボランティアに頼りすぎている。スタッフ等の和が確保できない。町職員の協力(例えば動員としてなど)が甘い	地元住民と町職員のつながりがもともと強くする	地元元活動を経て入庁している町職員。	一般住民協力者の著しい減少。	住民と行政の強い協力のうえで成り立つ町。	事業の見直し。(住民の意見も聞きつつ)	地域の事を十分に理解できている職員。
99 6 社会基 盤	土地利用において、行政が主体的、積極的に誘導しているわけにはないが、住宅地、工業地、農地がバランスよく立地している。	一体性、計画性が不十分であるため、人的・物的移動の動線が円滑でない面がある。	里道(法定外公共財産)のうち、土地活用で寄付するものを整備し、動線の円滑化を図るとともに、土地利用を誘導する。	土地区画、道路等の整備に係る人員及びノウハウの確保	道路、橋りょう等の社会資本が老朽化し、長寿命化、更新のための維持管理費が増大する。	車から歩行者中心の道路整備へとシフトし、通過交通を処理する道路と生活道路とを明確に分離していく。	財政が厳しくなる中で、一定の水準を確保した行政サービスを行う必要があることから、新規の整備に際しては、維持管理等のランニングコストを見据えたものとし、維持管理においては劣化が著しくなる前に手当をし、更新時期を延ばさせる等の長寿命化を図る。	選択・集中また費用対効果を考慮した効果的な事業に特化した取り組み
100 6 社会基 盤	鉄道、自家用車での移動は便利。	道がせまい		思いきった政策	交通弱者の増加	JR山崎駅バリアフリー化と宝寺踏切除却。西国街道を歩行者に優しいものに。	維持、管理	安全、安心
101 6 社会基 盤	町域が狭いため少数で全体を考え管理できる	少数で良いと思うがその少数でもない。	住民コミュニティをもつと生ずべき(役場に言ったら何でもしてくれる)思っている	外を見る目。内々だけで「まあいいだろう」でおさまっている。	昔からの人と新しい人の融合がうまくいっていない。根本的に全く違う物になってしまふ。	全てにおいて尊重できる環境を作る。	町民が安全、安心に過ごせる環境を作る。	町道等の環境整備(バロボロだとすべてがダメに見える)
102 6 社会基 盤	小さい町のため、コンパクトにまとまっている。駅が3つあり、利便性が良い。介護タクシー等。	JR前ロータリーが危ない。開かずの踏切。道路がせまい。危険な坂道。交通弱者の移動手段。			さらに高齢化が進み、交通弱者の増加につながる。また、事故がおこりやすくなる。	駅前周辺の交通整備。安心して歩ける町。町内の病院や公共施設、買物場へのアクセスが容易にできる。	最低限安全に歩ける道を整備する。(JR前ロータリーなど)	道路、駅整備。できればコミュニティバス(デマンド型など)で交通弱者が気軽に外出できるように。
103 6 社会基 盤	良好な地下水を水源とする自己水と安定給水が可能な府営水の二元水原性。	施設全般は老朽化しており、震災被害、水害被害を受けやすい。	長岡京市の施設、ノウハウを活用し、広域化をすすめるべき。	全般、人員削減等によりQJTでノウハウが引き継がない。	人口減少等により水需要は低迷する。宝本浄水場開闢等ダウンサイジングが必要。	長岡京市への業務委託で乙訓広域水道を実現する。	水道事業は行政でやる必要がないと思う。	積極的な業務委託と広域化。
104 6 社会基 盤	一通りの物は有る。	維持管理できてない	インフラの維持に予算をつける。	金、人員	インフラの老朽が進み、支障が出た。	インフラの計画的な維持	インフラの維持	現状の把握
105 6 社会基 盤		道路がせまい所がある、時間帯によってはこむ						

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
106 7 農業	生産緑地制度により農地が保全されること。生産地と消費地が近いこと。	消費者のニーズを知ることができると。			都市近郊における緑地(農地)の多面性が重要視される。「安心・安全な農作物」が求められる。	農地は都市近郊の緑地として機能を有するため、適切に管理されている。生産地と消費地が近い(同じ)ことを最大限に活用し、「安心・安全な農作物」を供給できる農業(ブランド化)	本気で農業による生計を立てる方に技術的支援や経済的支援を行う方針とする。	
107 7 農業	大山崎町には自然(田んぼ、畑、竹やぶなど)が多く残されている。	時代とともに土地開発が進み、自然がこわされる。	将来の担い手を増やす努力(若手)。休耕田畑の活用。	将来の担い手を増やす努力(若者)。(魅力ある農業の研究)	高齢化にともない従事者の減少。田んぼ、畑の縮減。	自然、豊かな町づくりの自然、豊かな農業の姿。	自然、豊かな町づくりの工夫と努力(各農業、産業など)。見通しをもった農業への政策(魅力ある農業)	見通しをもった農業の政策(魅力ある農業)。
108 7 農業		地産地消を保育所・小学校等で行なえれば、新鮮な野菜等を安く求められ、お互いに良いのではと思います。問題点は多いと思います。が、解決策はあるのではと思います。			高齢化により農業をすすめる方が少なくなっているのでは。			
109 7 農業	ない	市街化が進み農地がなくなっている。	人	人員	農地がなくなる。	農地、市街地を区画整理する。	明確なビジョン	農地としてのごす区域を明確にする。
110 7 農業	エゴマ							
111 8 商工業・就業	天王山の下、少しづつお店が増えてきていること(飲食店等)。	観光、散策できるコースに、いろんなジャンルの店が並ぶというのでは？	雑貨など点々とあるがあまり知られていない。散策するにもむづかしい。	町を支える規模の工場等、税金をおとしてくれる大会社。	町の財政にひびく。生活に必要な物の購入がほぼ他市町でまかない、町のうるおいがへつていく。	商業と観光を兼ねた町づくり。		
112 9 観光・賑わい	観光資源がコンパクトにまとまっている	歩道の整備。サインの設置。地図がなくても歩ける町。	天王山、河川敷	商店	観光が振興される	観光によって来町者が増加し商工振興が図られる	町として基本的に実施しなければならない仕事の洗い出し	本来行政でしかできない事を実施、地域住民でやれる事はやってもいい意識づけ
113 9 観光・賑わい	美術館や魅力的な神社等が豊富にある。	商店街等商業施設がないため、観光客が訪れてもお金を落とす場がない。	登山客の多さから天王山をもっと活用できるのではないかとと思う。	大型バスの駐車場、宿泊施設の不足	何もなければ現状維持であると思う。	他市町村のまねごとではなく、「大山崎らしさ」を追求し、それを求めて観光客が集うようになればよいと思う		財政等の縮小が見込まれている中で、行政の動きが動くだけでは発展しない。商工会や民間と手を組むことで長続きするのではないかとと思う。

選択分野		(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと	
9 観光・ 賑わい 114	小さい町ながらも、歴史的な観光地がたくさんある。また、観光地同志が近い。(移動しやすい、ハイキングに良い)	1日、あるいは半日で見てまわれるので、長く滞在してもらえない。泊まれるところの充実や温泉(お風呂)施設等あればいいのでは。		人材。(同じ人が遑う団体を掛け持ちしているため、負担が大き)様々な人が活動してくれるとよい。	リピーターを獲得しないと、町に来てくれる観光客は減っていくのではないかと。何度も来てもらえるような工夫が必要だと思う。	観光で訪れた人が、大山崎で暮らしたいと思ってくれる。	町についてもっと知る、事業をしていくのも大事だが、町にどんな団体があるかどんな人が活動しているかなど、知っている人が少ないと思う。	分野をわけて、事業等すすめていかねばならないとは思いますが、あまり細かいわけではないが、例えば「観光」「スポーツ・文化」「観光」「防災」等をくっつけて考えてみた方がいいのではないか。	
9 観光・ 賑わい 115	たくさんの方が登山に来る天王山があり、山崎山荘などがある	周辺施設がそれほど充実していないと思う。山崎駅周辺にしか店などがないので、もっと大山地区にも店があり、そこから人も人が流れていけばいいように思う		人が立ち寄れるカフェや店がもっとあれば					
9 観光・ 賑わい 116	観光資源に富んでいる。	活かされていない。	歴史的な分野	呼びこむ資源はあるので留まってもうための資源を(飲食店など。実際に観光に来られる方の年齢層にあったものが少ない)	現状と変わらない。山の開発が進めば観光客の減少。	観光資源の保存	観光面の活性化。	観光産業への補助。環境保存への補助。	
9 観光・ 賑わい 117	最低限の予算で実施している。よくも悪くも。観光については。	ふるさとガイドの会(高齢)の会員さんなどの協力で実施できているミニツアー(観光)が多いが、一部ガイドツアー(労力大)でなく定点ガイドにしてほしいと要望されている。考慮要。	長岡京、向日市には観光のメインとなるポイントがなく2市が組む日帰りツアーのメインは山荘と藤竹居が組みこまれ観光客が増え、他はあまり。	観光ツアーを組んで大勢で食事できる場所。	10年後藤竹居(一番の観光資源)は老朽化して使えなくなっているかもしれない。山荘は残る。	藤竹居の保存の道筋を所有者の納得いく形でつける。(維持費や耐震工事が必要なのでかなり大きな企業などが必要か)	小さいが京都市のようにガイドツアーを組まなくても遠方から人が来られる資源がある。英語表記など充実させ京都市へ来た観光客をとりこめるよう、発信をする。(英語ホームページなど)小さな店が根づく環境を整えお金をおとしてもらえる町にする。	水道料金については、次回改定で必ず口徑別の公平な料金体系にする。小規模店舗が町に開店すると利点があるような特典を設ける。	
9 観光・ 賑わい 118	観光資源が多い	道がせまい		観光施設間に連携(イベントの連携、情報の共有・連携)	人口減少に伴う観光客の減、人口減少に伴う交通量(車)の減	観光客を呼べるイベントを企画し、歩いて回れる街としてPRする	個々の資源だけを見ずに、町としての全体的な方向性をはっきりさせ、進めること	客を呼べるような民間のイベントの補助金等の創設	
9 観光・ 賑わい 119	歴史的な観光名所が多い	駐車場整備。イベント	土産物や飲食店を活用し少しでも滞在時間を増やす	飲食店。お金を使いたくなる店	意識改革がない限り現状のまま		アクセス道路の整備(歩行者優先)。街なみの創出	住民意識の向上	

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
9 観光・賑わい 120	交通の便が良い。天王山。	店が少ない。	天王山や妙喜庵	飲食店。天王山のコース整備、案内。	天王山の荒廃化？	天王山ハイキングコースを作る。充実化。		
9 観光・賑わい 121	観光資源が多い	その観光資源を十分に生かされていない	町のユルキャラをつくる。全国にアピール	道の駅、コミュニティバスの運行、観光案内所	西山天王山駅により、円明寺団地の人口が増えにぎわう一方、大山崎地域は人口が減り高齢化ですたれていく。	高齢化や人口減があっても誰もがすまやうくゆつたりのんびりできるまち、また、若者で活気のあるまちになると思います。	行政と住民がファイブティファイの関係でまちづくりを進めていく。あくまで主体は住民（現職員では限界）	協働を推進する
9 観光・賑わい 122	天王山をアピール。登山させる（他市町村、子ども会、自治会等、誘ってアピールお土産等作る）健康に繋がる		旧役場。図書館、プール、ジム、健康施設充実。実。	町おこしで、元気な老人の力を借りてたけのこ水煮、パン、クッキー販売等	田畑が売れ、住宅やマンションになり人口が増える。	自然を守りつつ、住みやすい町。医者、買物がある	子育てしやすい町。自然を大切に育ててきた。ゆりかご〜墓場まで。老人との交流も大切にする。乳幼児人口形成の土台（小、中学校〜）。女性の社会進出応援。	子ども、老人大切にしたい町。空気が良い自然アピール
9 観光・賑わい 123	歴史的な背景によって、多くの文化財や文化遺産が所在し、それが現在の「文化的観光ブーム」に一致する。	住民の意識として全国から「注目されている」というキモチが低い。それは役場にいる職員も同じ。「景観」に配慮した魅力ある街が観光のポイント。	外からやって来た新住民や来町して活動しようという人たち。	滞在型の観光地となるための施設、ショップ。※大きな荷物を預ける所がないとよく聞きます。※気楽に入れる食事処が欲しいとの声も聞きます。	観光ブームの対象が変わると思う。※今、人気のある施設が10年後も賑わっているかどうか不明。	施設などの観光地に変化があっても、安定して賑わいを持たせるためには、やはり地域の活性化（居る人たちにとっても）が必須。	地域の活性化は、本来は住民本位で補助や助成金など公的な制度を活用しやすいようにするのが行政の役割だと思う。	大山崎の良いところをこわさないこと。
9 観光・賑わい 124	潜在的な観光資源が豊富	観光資源を十分活かされていない	天王山。歴史資源（山崎合戦等）。サントリアサヒ。	リードすることができ人材（産学公い）ずれにも必要	観光客の取り合いが激しくなり、勝ち組負け組が明らかに分かれる	大中市近郊の魅力的な観光スポット	バラバラの資源をつなげ、魅力を発信すること	バラバラの資源をつなげ、魅力を発信すること
9 観光・賑わい 125	自然や歴史に恵まれていること	文化的な恵みと観光をあまり結びつけられていないこと	ご老人など歴史に造詣の深い人的資源					
9 観光・賑わい 126		店ボが少なくない。働く施設が少なくない。	豊富な地下水をアピールし、売る。（ペットボトル等で）工場のくみあげ水の料金をとる。		今のままだと特に変化はないだろう。	観光客が訪ずれ、買物してくれる。	保全（観光資源）	ウイスキー工場（隣町）や大山崎山荘、藤竹居、待庵等観光資源をアピールし、お金を落とす（SNSの活用等）。地下水を売る。
9 観光・賑わい 127	鉄道、高速道路の利便が良い。	町内の一般道が狭い。JR山崎駅の踏切。	天王山、史跡。ふるさとガイドなど住民による観光ガイド。	サービスエリアのような休憩所。宿泊所。	観光客が増加すれば車や人の出入りが多くなりぎわいを見せる反面、排ガス、ゴミ等の増加が心配される。	町全体として「おもてなし」の精神が印象づけられるようにする。	町並の整備（乱開発等を制限）。町内の道路網の整備。	町道等の拡張。JR山崎駅踏切の改善。

選択分野	(1)選択した分野に関する現状分析				(2)選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
10 町民 活動・交 128 流	地域住民のきずなが有ると感じる時が有る(特に田明寺地域)。田明寺地域には「夏まつり」という一大イベントがある(地域の住民をつなげていった過去の経験が積み重なっているのではないかと。住民が登校班の子どもを自主的に見守ってくれている)。団団の一室の部屋を町が貸り、地域住民のサロンとなる居場所づくり、もしくは運営費の補助をすることで地域での居場所づくり(子どもも大人も)をする。	大山崎地区には住民が企画運営する「まつり」はない。	シルバー人材センターに登録されている方は、技術や経験を持っている方が多くいます。困っている世帯にお手伝いができることを若年家庭も含めて宣伝されている方がいたり、NP自宅を居場所提供されO法人の団体も有る。住民に子ども～年配者までの居場所を宣伝されてはいいか。行政では限界があるのでは活用を考えられないか。	医療機関	地域住民の高齢化による疾病の増加、医療費の増加、福祉施設の経費増加。子育ての孤立化(新しい住宅や転入者の増加による)。地域に慣れない方が増えるのではないかと。祖父祖母の援助(子育てサポート)が受けられず、長時間労働による若い世帯の育児困難。経済状況の悪化による生活困難者の増加。	高齢者～小さな子ども達までが健康でいきいきとした街になること。技術や知恵のある高齢者の方が働き続けることができる場があれば高齢者の方も健康でいられるように思う。シルバー人材センターの登録者の仕事内容の再考(竹炭づくりや木酢液等の産業おこし、子育ての支援など)により登録者の増加。	住民が最も“くらしの声”をもっているのが住民の要求を広く把握する。10年後に目指す街にするために必要な手立てを計画的に予算を確保し、実行すること。住民の命とくらしを守る姿勢を貫いて！	住民の声を真摯に聞くこと。産業(高齢者のできる仕事で地域の竹を使った産業おこし)おこし。地域のサロンづくり。シルバー人材センターの仕事内容の再考(産業、子育て支援)
10 町民 活動・交 129 流	都市部との比較において地域連帯は一定保たれている。一部の志縁団体の活動は活発。職員が寛容、従順。	行政依存体質。キーパーソンの固定化、高齢化。職員の過ぎた寛容、従順さ。	情報	相互理解(ブラットホーム)。ある意味での悪役。	少子高齢化と経済、財政の縮小により公的ニーズに行政対応が追いつかない。この分野のとりくみの重要性を認識し、実行スピードを加速しなければめんどくさいことになる。	住民(各種団体含む)と行政が目標、目的を共有し、互いにその役割や特性を理解し合い、適切な分担のもと地域課題やニーズの解消にとりくんでいる様。	ニーズは時代とともに変化し減少よりもむしろ増加していく。行政本来の役割は“住民福祉の向上”であり、しかし実施主体については柔軟であつても良い。現状に即した適切な分担について本気でとりくむことが今すべきことであり、行政の責任ではないか。	発信、収集、ギモンを通じて相互理解を深めること。避ける、逃げる、先送りすることからの脱却。
10 町民 活動・交 130 流		ボランティアに頼りすぎている。スタッフ等の和が確保できない。町職員の協力(例えば動員としてなど)が甘い	地元住民と町職員のつながりをもつと強くなる	地元の活動を経て入庁している町職員。	一搬住民協力者の著しい減少。	住民と行政の強い協力のうえで成り立つ町。	事業の見直し。(住民の意見も聞きつつ)	地域の事を十分に理解できている職員。
10 町民 活動・交 131 流	一部の地域では、地域コミュニティが形成され始めていると思われる。(鏡田など)	①-1のことの広がりが。行政と住民との協働の取り組み		行政と住民とが協働で取り組みに当たり、リーダー的な存在が不足	住民の関わりが希薄化となってくる。地域の中でも交流が減ってくる。	①の様にならないよう、住民と行政が関わりを持ちながら事業に取り組む、地域間の交流も活発であるべき	リーダー的な存在の発掘、育成。協働に向けた行政からの仕掛け	協働の取り組みを進めるにあたり、職員の協働に対する理解、意識の育成

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
132 10 町民 活動・交 流	行政単位、学区が少な いので知り合いになり やすい。	地区によって、住民の 年代や生活パターンに 差違がある。そのため 町民としての共有した 自治意識が薄い。	文化的ゾーン(史跡や 有名な礼寺、美術館、 近代建築)としての周 知はある程度されてき ているが、点としての滞 在に終わっており、賑わ う地域が限られている。 それを広げる努力。	町の活性化を進める若 い住民等の発言力。交 流の場。	住民の世代交代、それ による住民意識の変 化。また、ここ15年ぐら いで増えている田畑が 空地の宅地化(ミニ開 発が多く計画性に欠け る街づくり)	都市に近く交通アクセス が良い点。文化ゾーン としてのイメージ付けが 保持されているれば、そ れを活かし、整った街 づくりを意識的に行なう ことで実現する个性的 な町「大山崎町」。	住民個人や団体のレベ ルではできないこと、例 えば無計画な開発に歯 止めをかけて、バランス を考えた町づくりの土台 を作ること。	公共事業として定めら れている分野で弱者を 守ることは行政でしかで きないことだと思いま す。その上で、その制 度や運用をする際に、 多様に住民のチカラを 発揮できるようにしてい くべきでは？
133 10 町民 活動・交 流	アンケート等を取ると、 地域のために何かサー ビスをしたいと思う人は 多くいる。	何かをしたい人とサー ビスを受けたい人がつ ながらない。	社協、商工会、シル バー人材センター	「協働」を理解し、積極 的にすすめていくノウハ ウ。	何もしないと変わらな い。	サービスの出し手、受 け手を含め、町民みん なで町を運かす。	人と人のむすびづくりは コーディネート。	「協働」を理解し押し進 める。
134 10 町民 活動・交 流	ガラの悪い組織人が少 ない。穏やかな雰囲気 が多い。	井戸畑会議できる場所 を増やす。政治によるし がらみの除去(新、旧の 温度差)	民間メディア、トーセ (株)によるゲーム形式 での啓発	集まれる場所。居酒屋 、スナック、飲み屋、 喫茶店	高齢化、出歩く人が少 なくなる	お年寄りカフェ。住宅の 入れかわり。孤立社会 を防ぐ	コミュニティづくりは行 政の役割か？	民間力の活用。誘致。 定年者の自営の促進
135 10 町民 活動・交 流	町民運動会や大山崎ま つりなどのイベントに参 加者が多いこと。	町内会、自治会充足率	人的資源(団塊の世代 を中心とした前期高齢 者の活用)。物的資源 (空き家対策も含めて、 地域のコミュニティの場 の確保)	地域におけるリーダー	行政からの仕掛けにも よるが、イベントなどを 通して、地域のコミュニ ティが活性化される(期 待も込めて)。	町民自らの居場所を地 域におき、地域コミュニ ティの中で、自助、共助 の取り組みにおいて、 成熟したまちが生まれ る。	地域の活性化やコミュ ニティづくりのための仕 組みづくり(仕掛け)。	自治会から町レベルま での各種の交流イベン トの提唱・誘い。地域コ ミュニティのリーダー養 成。
136 10 町民 活動・交 流	人口1万5千人のまちで あれば町の中での状況が 細かなところまで注視で きるのではないか。これ は他の大規模な自治体 にはない大きな強みだ と思います。	小さいがゆえに行政が なんでもかんでも手を出 しすぎてしまっているが あります。もともと住民自 身が自発的にしえ る方だと思います。	住民自身の自発的活 動(本項目だけではなく すべてのものに当ては まると思います)					
137 11 行政 運営		臨時職員の賃金処理シ ステムの見直し			財務制度の見直しの中 での会計事務に精通し た人材の育成。(電子 マネー、クレジットカー ド等)			

選択分野		(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析		
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
138	11 行政 運営	税の徴収率の高さ	都市計画税導入	大企業(法人税等)。生産年齢人口。	好景気が続けば法人税の増税(制度が変わるため増収にはならない。設備投資等による固定資産税の増収。高齢化による住民税の減収。新しい家屋が建ち、固定資産税の増収、農地の減少。跡継ぎがいなくなり、遊休地増加。	企業誘致。都市計画税導入。生産年齢人口の増加。	決められた制度にのっとり、正確に徴税する。徴収率100%を目指す。	合併を考えるならなおさら都市計画税を導入すべきである。税収増加にむけ企業誘致。
139	11 行政 運営							人口1万5千人の大山崎町は誰かが人を助けられるやさしい町と思っています。又、ひとりひとりとくに弱い立場にある方々へのやさしさは、安心してくらせる町としてのほこりだと思っています。町職員が削減される中、そこで働く方々のやさしさ熱心さを生かしていねいにこつこつと行政を行うことが、大切であると思います。議会の運営がもうこし町のためのものであってほしいと思います。
140	11 行政 運営				税収の減少、住民の高齢化	継続性のある財政運営、合併も視野に入る。		事業を精査し、身の丈に合った行政を展開する。
141	11 行政 運営	行政の守備範囲が狭い(規模が小さい)	収入の少なさ(収入を増やす為の策がない)。非効率な支出。	交通の便	収入源	人が住みたい街を目指している途中段階		(1) 支出の検証(2) 取り組みべきことを専門家と作成する

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
142 行政運営	税収がわりと安定して いて、財政力として 高い	税収(法人税)が一部 に頼っている部分があ り、1つの会社の業績が 悪くなるだけで大きなダ メージになる→他の財 源確保策が必要	立地の良さ(京都、大阪 へ通勤にも便利)→働 きがりの世代・子育て 世代へのアピールを もっとすべき。住めば便 利、教育にも良そうと 思わせる。観光に来る 人はたくさんいるが、そ の人たちが町内でお金 をおとさないのがもった いない。	商業施設(スーパーな ど)が少ない。もしくは 買い物代行サービスな ど、高齢者や小さい子 どもがいて外に出られ ない人でも利用できるも のがあればいいと思い ます。	高齢化による福祉関係 の支出の増大と人口減 などによる税収の減に よって財政が厳しくなる	より適正な財政運営を すすめるのはもちろん、 高齢化や人口減少をく いとめる施策等も考え ていく必要があると思 います。子どももお年寄 りも住みやすい街にし るには、子育て世代の支 えが必要だと思います。	住民福祉として、課題 を見きわめて要望に応 えること。住民との関係 (信頼)づくり、コミュニ ケーション。	子育て世代が「住みた い」と思えるまちづくり (子育て支援・交通の 利便さ)
143 行政運営	中、大規模の自治体に 比べて、窓口に来られ る人数の関係等により、 親切的対応が可能とな る。1人の職員の業務 範囲が広がるため、業 務知識の幅が広がる。	「よい点」とは逆に、大 半の職員が広く浅くの 業務知識である。	業務の内容により、アウ トソーシング、人材派遣 等の人材資源の活用。	法律や規則等の専門の 知識(ノウハウ)を熟知 している人材数。	多くのノウハウを蓄積し ている団塊の世代の大 幅な退職による人材の 変化。	限られた職員でも住民 サービスを低下させるこ となく、多様化、専門化 する住民ニーズに対応 できる。	税、保険、福祉等の行 政サービスについては 資源(人材)の減少に 関わらず、ミスをなく提 供できることが当たり前 のことであり、その上で 住民へのサービス向上に 務める。	蓄積されたノウハウを共 有し、資料等の作成を 行い、後任者を育てる。 または、職員が行う業 務と職員ではなくても行 える業務の切り分けを行 い、アウトソーシング、人 材派遣等による専門ノ ウハウを持った人材確 保の体制作り。
144 行政運営	人口が少ないので1人1 人と対話する時間が充 分とれている。	開庁時間が限られてお り、住民に不便をかけて いる。	コミュニティバスの充 実	財政	インターができ、車の排 ガスは増える	少ない人数で行政運営 をしていかなければなら ない。幅広い知識 を持った職員が多数い るべき。		広く深い知識をもつ職 員の増加、人材育成。
145 行政運営	狭い地域に、限られた 資源で、これまで行政 運営をしてこられたこと は、一定評価できる。	財源確保を始めあらゆる 資源を活用して、アグ レッシブな町政運営を 目指していくこと	有効な土地活用(土地 資源)観光資源、町を 全国・全世界にPR・発 信するノウハウ	トップの強力なリーダ ーシップとそれに対応で きる優秀な人材	人口漸減、歳入確保が 年々困難になる	中世の自治都市「大山 崎」の精神が現在に甦 えつつある。思わせるほ どの確固とした自治体 の再生	住民の安全・安心の提 供のための行政サービ スの維持・継続。	財政の適正・安定化、 事務事業の抜本的見 直し(聖域なきトップダ ウンによる果敢な取組 が必要)
146 行政運営	不明	不明	JR山崎駅付近の活性 化	税収、府・国・議員との パイプ役	交付税が減る。都計税 でも足りず、大きな事業 はできなくなる	基金を積み立ててい る。事業をするとき、お 金も出すし、口も出せる ようになる。	町民の暮らしに関わる サービス	基金を貯める税収を上 げる、不要な事業を行 わない、箱ものを処分 する
147 行政運営			インターや国道が近い という利便性を活用し経 済効果を持たらす。	新たな財源の創出	電子決済の普及により 納税方法においてもそ のニーズが高まる可能 性がある	納税しやすい環境の整 備が行われ、規模にみ あった財源での行政 サービスが行われてい る。	公金の適切な収納と支 出	町内の資産を町内だけ で使用するのではなく、 町外にも積極的にセー ルスする。

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
148 行政 運営	自治体の経営規模としてはコンパバ外であることから機敏な対応ができること。	経営規模が小さなおことにより経常収支比率が常に高どまり状況になっている。	町のシンボルである天王山を活用して健康寿命日本一のまちづくりをすれば、元気なベッタウンとして魅力あるまちづくりができるのではと考える。結果として高齢者等に係る義務的経費の抑制にもつながると考える。	町のまちづくりについて夢を語れる職員や住民の交流の場や人材の発掘と育成が必要である。	現行の行財政制度において、現状の行政サービスを維持すると、住民の高負担が必然となる。	人口減少と高齢化をチャンスととらえて、行財政運営の体質改善を図る10年になることを考える。行財政の役割の原点に立ち返り過度な行政サービスの抑制を図った運営をすることであると考える。	まちづくりの基盤となる道路、上下水道、雨水対策などについて、都市計画税など導入して計画的に進め、その他のソフト事業を展開する。	高齢者が元気にくらすために、歩きやすい、流れやすい、街路の整備を進め、併せて高齢者が自宅に引きこもらないソフト事業を展開する。
149 行政 運営	住民目線の行政に努めている	行政のプロとしての意識・能力・努力が足りない	やる気のある町内在住者の職員採用	大山崎町に無条件に愛着心を持つ人材	少子高齢化、福祉予算のさらなる増による財政難	人口減少が抑制され、地場産業があり、生活環境も一定安定して住み続けたいと思えるまち	町民の安心、安全の確保(福祉サービスも含めて)	本町の災害特性を踏まえた防災、減災の取り組みと協働して地域課題を解決する取り組み
150 行政 運営	財政運営直化を改善する為の取組みを住民等に理解してもらうためのタウンミーティング等実施している点。	財政運営の硬直化を改善する為の施策を住民等に理解してもらえない点。	阪急の新駅が大山崎町と隣接する地域にできたことを活かし、観光施策や人口増に繋げられないかと思う。	都市計画税の導入。	新たな財源の確保が必須。	都市計画を導入し、財源を確保してうえで、事業の必要性の有無(施策の順位)を選択する必要性があると思う。	生活のパイプラインの確保。行財政運営の健全化。経常経費と投資的経費のバランスを保つ	行財政運営の健全化
151 行政 運営		住民票などの書類が時間内にしかもらえない。休憩時間中も待たされる。	パソコン、スマホなどで予約してコンビニ受取できるなど					
152 行政 運営	組織がコンパバ特なので、意思決定～実行までスピード感があるのでは。面談もコンパバ。	組織よりも職員個人の能力、考えに左右される部分が大きい。(良くも悪くも)	シルバー人材、特に60代の定年後まだまだ働ける能力も体力もある人達	財源(代表的なものとして都市計画税)	人口の減少、税収の伸び悩み、高齢化の進行	スリムな行政の実現。税収の確保。近隣市町との合併も場合によっては必要では。	自治体運営の根幹となる業務。(防災、総務、財政、議会運営等)	防災、業務の外部委託化、等
153 行政 運営	庁内の組織がコンパバであり、情報の共有やまちづくりに対する横断的な対応が可能であること。町民の声が入りやすく、対応にフットワークが軽いこと。町民の担税力が強いこと。	まちづくりや生活に関して、町行政への依存度が高いこと。多くの町民が行政について関心が低いこと。		財源(代表的なものとして都市計画税)	何も手を打たなければ、財政破綻の危機もありうる。	首長の強いリーダーシップのもと、事業・施策の集中と選択に裏付けられた、持続可能な行財政運営のしつかりしたまち。あるいは、将来を見据えたうえで、ポジティブな合併を選択したまち。(現時点では判断できない。しつかり見極めが必要)	行政の役割と町民(地域)の役割をしっかりと担いながら、持続可能な行財政運営を行う。	財源の確保(都市計画税など)。可能な範囲での民間活力の導入。

選択分野	(1) 選択した分野に関する現状分析				(2) 選択した分野に関する将来分析			
	①-1 よい点	①-2 改善すべき点	② より活用すべき資源	③ 不足している資源	① 予測される環境変化	② 10年後のあるべき姿	③-1 行政本来の役割	③-2 重点的に取り組むべきこと
154 行政 運営	アンケート等で意見を聞こうとする姿勢。	誰にでも解りやすく話しをまとめる。						
155 行政 運営		仮称国土幹線提供特別税の検討。水道会計の慢性赤字体質の脱却。	大都市圏に近く、比較的緑が残る環境面。	法人税が期待できる企業誘致。新現の宅地の区画を大きくして(するよう誘導)、新転入者には、高所得者層の比率を上げ、自立度の高い住民の流入を図る。			排水ポンプ場の更新は、本町だけの予算では、まかなうのは不可能。防災の面から、国や府に補助率の大幅アップの要望と、同じ悩みを持つ自治体連合で広域的治水対策は、広域でという認識を国にもたせる。	地域住民にも桂川堤防に支障が発生した際のシミュレーションを情報発信する。